

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 28 年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局 (元事務局長)
- (委員) 大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員
テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 鈴木 靖子 公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 星野 学 本校卒業生代表、花屋「朧月」代表
- 岡部有希子 本校卒業生代表、株式会社 日比谷花壇 勤務
- (事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
- 古谷 民子 同 教務部長

2. 実施日時 平成 30 年 2 月 2 日 (金) 10:00~12:00

3. 平成 28 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

現状の通り、理念・目的・育成人材像は外部に発信し続けること

2) 学校運営

大よその運営方針や事業計画は定められているので、しっかりとそれにそった運営をすること

3) 教育活動

- ・カリキュラム編成の際は、時代の流れに沿っていくか、先行するのか、時代と乖離していないかということを絶えず考察し続けていくべきである
- ・企業との連携を密にして、基本的な部分は校内で、最先端の部分は外部でというような指導方法も考えるべきである
- ・専門コース以外の園芸に関する知識・技術を一通り学べるということは、仕事をする上では役に立つため、その部分は継続してほしい
- ・学生たちが出した結果 (たとえば生産物や商品、作品など) について客観的は評価を与えることが必要である
- ・指導内容を基本的なものと個人の能力が発揮できるような応用的なものとでメリハリをつけ、学生たちが今以上に切磋琢磨できるような雰囲気醸成できるとよい
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供を今以上に密にすべきであろう

4) 教育成果

- ・就職率、資格取得率については高い水準を保っているが、今後は数値だけでなく質の向上も図っていくとよい
- ・資格取得の授業を受講しても、実際に受検しない学生に対しては、自身の実績を示すうえでも大切なことだと知らしめ、意識を高める指導を行うべきである

5) 学生支援

同窓生への支援体制をぜひ強固なものへと整えていってほしい

6) 教育環境

経営上可能な範囲で整備を続けていくべきであろう

7) 学生の募集と受け入れ

学生募集活動は問題なく行われている

8) 財務

中長期的な安定を図るうえでも、特に学生数の増加に全教職員で注力すべきである

9) 法令等の遵守

特に問題ないと思われるが、できる限り早期に自己点検・評価の結果を公開して、積極的に問題点の改善につとめてほしい

10) 社会貢献

地域の講座等は引き続き実施すべきである。この時、学生に担当させることでコミュニケーション能力の醸成に役立ててほしい

3. 総評

上記10項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、教育活動については上記の通り、レベルアップをはかるための意見が非常に多く出されたことから、次年度以降一層の注力を望みます。

以上